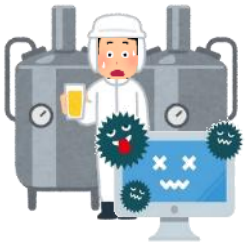
他人事でない サイバーセキュリティの話

2026年2月2日 総務課 市川

昨年、TV や新聞を騒がせたサイバーセキュリティの話というと、大手飲料メーカーやオフィス用品ネット販売会社がランサムウェア被害を受け、出荷できないという惨事があった事が有名ですが、報道されない被害も多くあり他人事でなくなってきています。



法人・団体の被害件数 ・・・ 2025 年上半期だけで 116 件(警視庁発表)

なぜこんなに被害件数が多いのか？ 身代金が取れてお金になるから！というのが犯罪者側の心理です。そして犯罪者側はプロ集団。IT に関する技術・知識力は桁違いです。狙われたら最後、われら中小企業などはミサイル攻撃に竹槍で防戦しているようなもので、とても防ぐことはできません。

## では、バックアップがあれば大丈夫!?

いえいえ、バックアップがあっても役に立たない事が多いようです。


調査によると、被害を受けた企業の60%がバックアップがあっても復元できなかったというデータがあります。最近の犯罪者はランサムウェアを感染させてもすぐには発症させず、潜伏期間をじっくり取って発症させます。ですので、潜伏期中に取ったバックアップの中身は既に感染してしまっているので使い物になりません。では、感染する前のバックアップを使えば？という話になりますが、バックアップには多くの容量が必要になります。容量が増えれば保管用費用もかかる。ですので、バックアップ保存期間にも限りがあります。

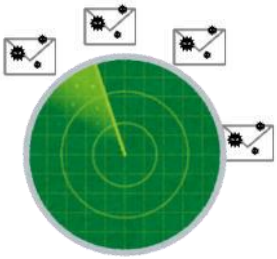
また、例えば何カ月も前の感染前のバックアップを復元しても、その間のデータが消えた状態ではすぐには使えないでしょう。

## もしランサムウェア被害にあってしまったら？

それは、ある日突然やってきます。表にでる被害は一部だけですが、感染の疑いが晴れるまで、全パソコンは使用禁止になります。最低でも1～2週間は使えません。目の前のパソコンはもちろん、機械や設備を動かしているパソコンも同様に使えなくなる可能性があります。昔やっていた紙と電話・FAX の時代に後戻りです。昔を知らない人は・・・・どうしよう？？ 長引けば、復旧までに数カ月かかる場合も。

製品が作れない、出荷できない、それだけでなく、タイムレコーダーを使った勤怠計算や給与振込も全てパソコンで動いてます。皆さんの給与計算にも影響が出る事間違いなしです・・・。汗汗

## 予防策・・・まずは、狙われないようにしよう！



フィッシングメール、迷惑メールなどは犯罪者側が発する一種のセンサーです。このようなメールを開いたり、本文中の URL をクリックしたり、添付ファイルを開いたりすると、犯罪者側にはいつ、どこのだれが、このセンサーに引っ掛かったかが通知されます。犯罪者側は「しめしめ、この企業はセキュリティ甘いんじゃね？」と、狙いを定めてくるでしょう。これは企業だけでなく、個人宛てのメールも同様です。

最近は**生成 AI** を使って巧妙な罠を仕掛けてきます。外国人犯罪者にとって“日本語”という高い障壁は、生成 AI のおかげ(？)で無くなり、より狙われやすく、より引っ掛かりやすくなっています。注意しましょう！

メールの例　こんな感じ

過去(不自然な日本語)

あなたは添付ファイルを開いてもいいです。

現在(正しい日本語)

添付ファイルを確認してください。

## 不安をあおるメール、緊急メール、おいしいメール、そんなメールにはご用心

フィッシングメールは不安をあおったり、緊急を要したり、またはおいしいメールを装う事が多いです。

**“あなたのクレジットカードが不正利用されました”、“支払いが確認できませんでした”、**
**”別の場所でログインがありました“、”アカウントが凍結されました“、**
**”お荷物をお届けいたしましたがご不在でした”、”【●●会社】至急連絡ください“、**
**”当選しました“、”未払いの残業代があります“**、などなど。
大手の会社や取引先、身近な会社を名乗ったメールが届きますが、落ち着いて判断しましょう。

## 2段階認証も、今は安心できない

メールに書かれた URL をクリック(*1)。その画面に ID、パスワードを入力して、メールに飛んできた数字を入力して、やっとログイン。手間のかかる2段階認証ですが、そもそも(*1)の時点で犯罪者の作った詐欺サイトに誘導されていたら、この2段階認証機能も無能です。メール内の URL クリックは慎重の上に慎重に。リンク先の URL を確かめましょう！

## TV・新聞のニュースを見よう

意外にも若者の方がフィッシング詐欺に引っ掛かる人が多いというデータがあります。いままで書いた事は TV や新聞で頻繁に報道されています。好きな YouTube や SNS だけでなく、興味のない TV やラジオ、新聞のニュースを見たり聞いたりする事が、自衛策として重要なんですね。